



●平松大地さんをから「へた煮に一時寝かせる」としており、「なります」と説明を受ける（左から）上岡彩夏さんと西土真央さん＝愛知県豊川市の平松食品で、①待機中の電車内でインタビューする（右から）ササナタリアさんと浦和花さん＝同県農橋市で



中日新聞プラス

取材にご協力いただいた皆さん
新城スポーツツーリズム推進実行委員会 有城辰徳さん
▽豊橋総合動植物公園 斎藤富士雄さん▽豊橋鉄道 今泉隆優さん、戸田昌裕さん、早川由佳さん▽N P O法人表浜ネットワーク 田中雄二さん
▽平松食品 平松大地さん▽「みなど塾」 加藤正敏さん



相手に合わせて対応を



現場に行くと、思わぬ発見に驚くことも。前芝小五年の上岡彩夏さんと西土真央さんは、学校近くの「平松食品」工場で、徹底した品質管理にびっくり。帽子にマスク、白衣を着ると、体に粘着ローラーをかける。手洗いは毎回爪までしつかり洗い、アルコールで消毒した後は、エアシャワーで全身のほこりを取り、「おいしいつくだ煮を作るために、見えないところまで手を抜かないんだ」と、二人はすかさずメモを取る。さあ、原稿の材料はそろった。ここからが腕の見せどりだ。

取材で大切なのは事前準備。飯村小六年の玉江士道君は、取材する「トレルランニング」（トレラン）について、インターネットなどでじっくり調べた。トレランは、登山道や林道を走るスポーツ。自分も家族で参加した経験から、「大会の安全をどう守っているか」「どんな大会を目指しているか」など、知りたいことをノートに書いた。現地へ向かう電車でも資料を読み返す余念のなさで、新しい質問を書き加える。

取材は“生もの”。無口な人もいれば、質問する暇もな

いほど話を続けてくれる人いる。どうしたら、相手に話りたいことを話してもらえか。まずは、いろんな角度から、たくさん質問を考えよう。

法に変更だ
二人組というメリットを生
かしたのが旭小六年のササタさん
ナタリアさんと松浦和花さん。
「市電」の愛称で親しまれ
る「豊橋鉄道市内線」と、
ウミガメの保護や海岸の保全活動を
するNPO法人を取材
した。

市電では、ササタさんが開
き役、松浦さんが書記役を務
めた。対話形式の取材は、相
手の話を理解する▽要点をメ
モする▽次の質問を考える▽
写真を撮影する――などを同時
に慌ただしくこなす。プロの
記者でも慣れるのに時間がか
かり、複数人で役割分担する

愛知県豊橋市の小学生六人と本紙記者が七月から進める新聞作り。テーマを「みんなが知らない地元の魅力」と決め、いよいよ取材だ。「何を聞く?」「うまく話が聞けるだろ?」期待と不安が入り交じるなか、児童と記者は取材に向かつた。

(那須政治、長田真由美)

新聞を作ろう

んだよ」。普段からガイドをしていることもあって、面白い話が次から次へと出てくる。「メモが追いつかない」と焦る水野さん。その場では、話をじっくり聞いて、分からぬことは後から質問する手

NIE全国大会名古屋大会は、2017年8月に名古屋市で開かれます

中学まで、途切れず支援

岐阜県白川町



「小学校に貸し出したいとは、こんな感じでした」と話す藤井さん＝岐阜県羽島市白川北保育園で

すいだるうとの心配りだ。
工夫の積み重ねが、子どもたちの困難感を減らす。工夫は保育園から小学校、中学校へと引き継がれる。

◆女子のための理系フ
ステ 愛知県は11月6日
後1時から「女子のため
理系★きつけフェス」を名古
市東区のウイルあいちで開く。理
に興味のある女子中学生や高校生
保護者らが対象。「理系の仕事」

エ　午　屋　の　系　と
題したパネルディスカッションな
がある。無料。県のホームページ
載っている所定の申込用紙で10月
日までに県男女共同参画推進課に
アクス＝052（954）695
＝で申し込む。（同課＝電05
（954）6657

中曰「どもウイークリー
二十二日から始まる「おう
でトレーニング・パレーボ
ル」の取材で、バルセロナ
輪に出場し、Vリーグ・ト
タ車体クインシーズのゼネ
ルマネジャーを務める泉川一
幸さんに、バスやスパイクの
コツを教わった。

生来の運動音痴で、バレ
ーボールには苦い思い出しか
ない。中学校の体育の授業で、
オーバーハンドパスの練習
を教わった。先生から「ど

運動音

ピアノも、しばらく片手でしか弾けなくなつた。
「どうすれば突き指しますか」。初步的な質問に、泉さんは「ボールを何度も打た上げ徐々に高くしていく」と、力加減が分かつてきますよ」と、丁寧に答えてくれた。
学校では、指や手首の使い方などを細かく教えてもらつた記憶はない。今回の取材の方では、学校生活もう少し遡れば、学校生活もう少し遡つたものになつていたかもしない。
(築山栄太郎)

誰もが学びやす

保育園で、そのいすを使っていた子は小学校入学後、落ち着いていすに座れなかつた。当時保育園の園長をしていた藤井清美さん(62)は、小学校の校長から相談を受けた。「座りやすいいすを使っていましたよね。貸してもらえたまえんか！」

いすは、タオルで座面の三辺を盛り上げ、中にくぼみを作つてあつた。いすに座ると、くぼみにお尻が入り、しつかり座れる仕組みだ。なじんだいすが届けられ、その子は落ち着いて座れるように。

⑤ 岐阜県
小学校のいすでも座れる自信
がついたころ、いすは保育園
に戻ってきた

同町では、発達が気になる子について、保育園から中学校まで途切れなく支援する仕組みを4年前に整えた。教員時代に発達障害の子と接し、適切な対応の必要性を痛感した綾瀬政昭・同町教育長(64)の思いが反映している。

保育園でもさまざまな園児と関わった経験を経て、7年前から、チェックリストを使い、園児への対応や園の運営を工夫していた。手順を目で見て分かるように示したり、混乱しないような声掛けをしたり。「発達障害への理解不